

様式第3号（第4条関係）

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和7年度 第1回丹波篠山市史編さん委員会、通史編専門委員会

2 開催日時

令和7年12月27日（日曜日）午後2時から午後4時まで

*傍聴の受付時間（午後1時30分から午後1時45分まで）

3 開催場所

丹波篠山市西紀支所 202 会議室

4 会議に出席した者の氏名（敬称略）

(1) 委員 今井 進、奥村 弘、市沢 哲、大江 篤、池田正男、古市 晃、清野
未恵子、加藤善朗、堀井宏之

（欠席）藪田 貫

(2) 執行機関 中野 悟、小島理三、成田雅俊、上甲典子、田中美貴、北川勝也

(3) その他 松本充弘

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

(1) 令和7年度事業の進捗状況等について 公開

(2) 令和7年度専門部会の進捗状況等について 公開

(3) 令和8年度以降の刊行計画の検証について 公開

(4) 『自然環境編』印刷製本の仕様（案）について 公開

(5) 令和8年度事業計画（案）について 公開

(6) 委員の委嘱期間について 公開

7 非公開の理由

—

8 審議の概要

(1) 開会 今井進編さん委員会委員長あいさつ

(2) 報告事項

ア 令和7年度事業の進捗状況等について

事務局、松本特命助教より報告

(委員) A氏の史料について将来的な保存方法が課題と聞いたが、具体的にお願いしたい。

(特命助教) A氏の史料は生涯かけて集められたもので、豊かな史料である。これら史料を一体として保存することは望ましいと思われる。一方で書籍などの2次史料も含まれており、多数の史料を一括して保存する場所が課題である。事務局より補足をいただきたい。

(事務局) A氏の史料は納屋と蔵の1階2階、母屋の一部、離れに多数残されている。現状は、史料がどの棚にどういった形で残されているかを記録しており、納屋と蔵の概要がもう少しで分かる。併せて、母屋と離れの残存状況を確認している段階である。現状では、全体把握し、記録した後に市史で活用できるものをお貸しいただけるか、もしくは寄贈いただけるかを所有者と相談していると考えている。全体の史料をどうするかについては、文化財課も含めて今後の課題である。また、県立歴史博物館の学芸員にも協力いただいております、そちらとも連携できればと考えている。

(委員) 「篠山キャピタル」とはなにか。

(事務局) 空き家を古民家活用されているところで、所有者から篠山キャピタルに相談があり、そこから市史編さん課に声掛けをいただいた。初めに一緒に入らせていただいて調査が始まった。古民家活用を計画されているので、史料をいつまでも置けないというのが現状である。

(事務局) 補足になるが、A氏の史料ははじめみたときは圧倒されるほどの量であった。概要調査は段階的調査のはじめの調査で、どこにどんなものが、いつの時代のものがどれだけ残っているかを大まかに記録していく調査であるが、それをA氏宅の全体にかけようという方針で進めている。概要調査をすれば全体が把握できる。概要調査までは責任をもって取り組み、あとはもっと大きな話で検討していただければと思う。

(委員) A氏が「〇〇文庫」と名付けてコレクションされているということは、地域の方に公開するような意図はあったのか。

(事務局) 個人で調査研究される空間を作られていたとお聞きした。

(委員) A氏は、奥田楽々斎氏や小林敬三氏など文化顕彰会をリードしてきた後を継ぐ方であり、一人でコツコツと研究されていた。ご本人はそのことをあまり外部へ声高に言うような方ではなかった。お亡くなりになったが、収集された史料を何とかしてほしいと思われていたのではないかと思います。我々と

してはA氏の史料の散逸を防ぎたいと思うので、全てを公的機関で残してほしいと思う。

イ 令和7年度専門部会の進捗状況等について

各部会長より報告

【考古編専門部会】 池田部会長から、部会長作成資料に基づき報告

- ・今年度は3回の部会を開催し、第4回目を2月に予定している。
- ・協議では、掲載候補遺跡及び重要遺物、中世城館の掲載候補と執筆分担を行い確定した。遺跡のうち、中世城館は城郭の専門家の先生に依頼することにし、掲載候補及び執筆者が確定した。
- ・本の構成については、目次、執筆要領、図面写真等について原案を基に協議し、詳細を詰めている状況にある。
- ・掲載候補遺跡は129遺跡、重要遺物は13遺物で執筆を考えている。

【古代編専門部会】 古市部会長から報告

- ・丹波と丹後を通貫する大きな丹波の資料を集めるため、大学院生に収集してもらった他の自治体が集められた資料をベースに精査している。
- ・並行して、大きな丹波のまとまりがどうなっているのかを把握するために、2回にわたって市外巡検を実施した。(船井郡、加佐郡、与謝郡、何鹿郡、天田郡)
- ・部会を開催し、掲載史料の検討や市内巡検も積極的に実施した。
- ・12月には、近世の巡拝記に基づいて、福知山方面へ古代の山陰道の支路を巡検した。
- ・年度内は3月14、15日に部会を予定している。

【中世編専門部会】 市沢部会長から報告

- ・地域史料の調査と撮影記録を順次実施した。
5月には市内のA神社の大般若経の調査を実施した。地元の方が5月に虫干しをされるタイミングでお邪魔して奥書のある経典を撮影した。また、巻数が分からないものが多くあり、巻数入れ作業も地元の方の協力を得て行い、全点確認して撮影を行った。
- ・11月には、市外A寺の大般若経の調査を実施し、遊楽荘常楽寺で書写された経典の撮影を行った。
- ・1月には市内のB寺の大般若経の撮影させていただく予定である。
- ・次年度は、市内のC寺の大般若経で奥書のあるものを撮影してデータ保存した

いと考えている。

- ・前回の第9回部会では、資料編の年次進行と併せて、本が出るまでにどのような史料が集まっているか、中世史料をどう読み取ったらよいかを市民にも分かるように講座を開催する話があった。市民に調査成果を公表できる機会を持ちたいと考えている。

【近世編専門部会】 藪田部会長作成資料に基づき、松本特命助教から代理報告

- ・近世編の調査概要は、B寺所蔵文書、A氏収集資料、鳳鳴高校所蔵心学中立舎関係資料の調査が継続中である。B神社所蔵文書およびB氏所蔵文書調査、南丹市立文化博物館訪問を令和8年度に実施予定である。
 - ・「青山藩政日記」について、今年度も夏に集中調査を実施し、12月に報告会を実施した。
 - ・報告書の作成に向けて協議した結果、以下の2点が課題として浮上している。
①廃藩置県後、子爵家として青山家の歴史編さんが進められる過程や、「藩日記」が東京から篠山に移動され、收藏され、現在に至るまでの経緯を記すことが不可欠。そこで、「桂園舎日記」の調査、解読を近現代部会の協力を得て実施したい。
②日記の現状確認から、修復状態を一律ではなく、段階的に把握することが適切との指摘を得て(保存修復専門家)、全体の見直し作業を兼ねて、そのチェックを来年度の夏に学生の参加を得て実施する。その折に報告書に向けた学生の研究発表も予定する。
 - ・市史公開事業の実施について、市史編さん事業を市民に公開することを念頭に、学生参加の「青山藩日記」の報告会を3ヶ年に渡り実施してきた。今年度で終了するため、次の事業を実施したい。
①地域資料整理サポーター報告会を3月に実施。
②鳳鳴高校所蔵などの心学講舎「中立舎」に関する報告会を6月に実施したい。
- なお、刊行計画の検証については、委員会の総意に従う、とされている。

【近現代編専門部会】 奥村部会長から報告

- ・6月にWEBで打ち合わせを行った。その後、8月と9月に資料調査を実施した。次回は2月に部会を予定している。
- ・近現代部会委員は、篠山が初めての方が多いため、昨年度までに市内をほぼ巡検した。今年度は市史編さん課にある文書を中心に調査を進めた。
- ・その間、市史編さん課の資料収集で戦時関係の史料がかなりまとまってあることが明確になった。
- ・杜氏の史料もかなり出てきており、どういった方がどういった組織でどこへ行ったかということも分かってきたので、篠山の杜氏の活動形態の広がりに関連

性も分かってくると考えている。

- ・2月に部会をして、来年度からは具体的に史料の分析に注力したい。できれば近世部会と連携しながら継続して進めていきたいと考えている。
- ・青山家の近代の話だが、華族の史料の研究はあまりないが、最近では九州の大家の分析をされた方が2人ほどおられ、研究が進んでいる。うち1人は関西の人なので、場合により部会に関わっていただくことを考えている。

【文化財編専門部会】 加藤部会長から報告

- ・建築の執筆者がようやく決まった。川島智生氏で、旧篠山町役場や篠山小学校、八上小学校の調査で来られたこともあり、依頼した。
- ・部会は、5月、7月、8月、9月に4回実施した。
- ・陶芸の丹波焼、王地山焼、古市焼、篠山焼に関しては県立陶芸美術館に、主要作品で丹波古陶館所蔵のものは古陶館に執筆いただくことで決定した。ほかの文化財も執筆者が決定しており、掲載写真も確定している。
- ・部会で執筆要領などを確認し、現在はそれぞれに執筆作業を進めている。
- ・民俗学を中心に研究されている久下正史氏にも執筆を依頼している。

【自然環境編専門部会】 清野部会長から報告

- ・令和6年度に原稿執筆の依頼を始め、すでに12人の執筆者のうち11人から原稿があがってきている。
- ・11人の執筆者は学術研究している人から、農業をやりながら生き物をみているという人までバリエーションに富んでおり、文章の書きぶりがかなり違う。先日部会では、執筆者の書きぶりや伝えたいことを尊重したいとなった。
- ・今後、第3者的に簡単に査読してもらう人の確保も検討している。執筆者のご意向も確認しながら丁寧に進めていきたい。
- ・原稿量からして計画の400頁いくかどうか。300頁くらいになる可能性もある。書きたい人に追加で執筆いただくかどうか、種名が多いので別表で追記していく方法も考えながら刊行に向けて進めていきたい。

(委員) 写真を大きく見やすくしてはどうか。別表などの追記も考えられる。

(委員) 索引をつけるかどうかを全体の共通事項としておいた方が良いか。

(委員) 索引をつけるとなると文体を整えてからつけないといけない。入稿の時期をかなり前倒しにする必要が出てくる。工程に問題は生じないか。

(委員) 市史では全巻終わってから索引や年表編のようなものを出すことが多い。ただ、自然環境編では総合参照があるし、皆さんがどうしても索引が必要ということであればそれでも良いと思う。ほかの部会では時間との闘いになると思う

のでつけるとなるとかなり厳しいと思われる。

(委員) 安口の溶岩台地は取り上げられるか。できれば市史でも紹介していただきたい。

(委員) 地質の中には含まれていなかったと記憶しているが、記載が望ましいのであれば、担当委員に相談する。

(委員) ぜひ、検討願いたい。

(委員長) ほかに全体を通して質問等はないか。

(委員) 考古部会で赤色立体図を使って未知の構築物を探るという取り組みが各地で行われている。市史でも赤色立体図を使った新しい遺跡の検出をプロジェクトでできないか。

もう一点は、鳳鳴高校青山記念文庫に山崎宗鑑の自筆本と言われている貴重な史料がある。篠山には関係はないが、殿様が集めた文化的価値が高いものを市史に入れた方が良いと思う。中世編では扱えないので、文化財編部会で扱っていただけないか。

(委員) まさに、専門の分野の委員がおられる。

(委員) よろしく願いたい。

(委員) 文化財編部会で検討をよろしく願います。

(委員) 県のCS立体図では山の中に未発見の古墳があることがわかっており、測量せずに表現できないかという検討をしている。

(3) 協議事項

ア 令和8年度以降の刊行計画の検証について

事務局より説明（刊行計画期間を令和15年度までに変更、刊行巻数を本編計12巻・報告書1巻に変更）

(委員) 計画が後ろへ下がるのは理解するが、個人的な意見として、私の体力が年齢的にもつかどうか、健康が心配である。

(委員) 私もごもつともなことだと思うが、私は初めの編さん委員会で命尽きるまで刊行にこぎつけると言い切ったので、委員皆様のご協力をぜひとも願いたい。

(委員) 原稿の完成が本のできる時でなくても良いと考える。各委員の年齢的なこともあるので、原稿の完成時期を前倒しにしてもらって良いと思う。ただ、考古編は古代編と関わる部分が多いので、両部会で調整いただければと思う。

(委員) 計画に異議があるわけではないが、中世の資料編をデータなど見ながらどう作るかを部会で検討している。分量が相当多い。通常の中世編であれば、綱文、史料が付き、場合によっては解説がつくという形である。市民は綱文と解説を見て、

この史料にはこういったことが書かれているかが分かるようになっている。しかし、篠山の場合は中世史料が膨大すぎて、おそらく解説を1行たりともつける余裕がない。網文が2行ほどついたら後はほぼ読めない漢文がどんどん並んでいく、しかも、すごく分厚い本が中世については2冊できるということである。そのこと自体の意義は十分にあるが、この時点で知りえた史料をすべて刊行することは意義があると思うが、その用途と市民向けの用途を両立できず困っている。例えば、近世部会が活動成果として報告書を出されるように、中世史料を使った古文書講座のテキストのような、市民がとりやすい軽装の本で良いので、資料編に接近していただけるしかけをどこかで作らせていただきたい。予算のこともあるが、ぜひ検討の俎上に載せていただきたい。

もう一点は、資料編をどれくらい印刷して、販売して、在庫として持つのかという問題があると思うが、冊数を絞って、オンデマンドにする方法もある。すべての部会に当てはめるのではなく、中世部会ではそういった話をしている。ぜひ研究していただきたい。そのやり方でコストが削減できるようであれば、今後そういった方法も検討いただければありがたい。

(委員) 一点目だが、中世部会の委員と県立歴史博物館で話をしたが、篠山に関しては県博自体が派遣する形で中世にしても近世にしても関わっているので、その成果に関しては博物館で展示するとか、市民向けの紀要のようなものを出していければコラボレーションにもなると思うし、可能性があるかどうかはわからないが一度検討したい。

(委員長) この件については、事務局も含めて市で十分に検討いただくことで良いか。

(全員) 一異議なし

(委員長) 委員からご提案のあった分も含めて、事務局から説明のあった令和8年度以降の刊行計画の検証について、承認することで異議はないか。

(全員) 一異議なし

(委員長) 異議なしですので、令和8年度以降の刊行計画の検証について、承認することとする。

イ 『自然環境編』印刷製本の仕様(案)について

事務局より説明

(委員) デザインは誰がするのか。

(委員、事務局) 印刷業者で考えている。

(委員) 慣れている人なり会社が良いが、自然環境編を見やすい形で提示していただける業者はあまりないのではないかと不安に思っている。

デザイナーとまではいかなくとも、全体の調整ができる人を入れておいた方が良

いと思う。細かなことではなく、全体のレイアウトが調整できる方がいれば。

(委員) 作図などは人博などの先生が他市の市史にも関わられており慣れているが、代わりに全体を調整できる方がおられないか検討する。

(事務局) 1頁当たりの文字数、レイアウトは、事務局と部会長と相談しながら進めても良いか。

(委員) 承知した。

(委員) 三木市史を見ると委員名は全員載せてあるが、どのメンバーで載せたらよいか事務局と調整することで良いか。

(委員) 承知した。

(委員長) その件も含めて、事務局から説明のあった『自然環境編』印刷製本の仕様(案)について、承認することで異議はないか。

(全員) 一異議なし

(委員長) 異議なしですので、『自然環境編』印刷製本の仕様について、承認することとする。

ウ 令和8年度事業計画(案)について

事務局より説明

(委員) 令和8年度はいろいろな事業が計画されるということで、また事業が大きく前進した気がする。予算については非常に厳しい状況にあるが、確保できるように我々も頑張りたいと思う。事務局もよろしくお願いしたい。

(委員) 文章の保存の事だが、クラウドを使う方法があるか。市のシステムでできないか。

(事務局) 自然環境編の原稿はクラウドでやりとりをしている。資料データはもともと市のサーバーに入れていたが、圧迫してしまったこともあり、事務所内のストレージに入れて2系統で保存している。ただ、雷に弱いので対策を行うために来年度に予算を要求している状況である。

(委員長) 事務局から説明のあった令和8年度事業計画(案)について、承認することで異議はないか。

(全員) 一異議なし

(委員長) 異議なしですので、令和8年度事業計画について、承認することとする。

エ その他 委員の委嘱期間について

事務局より説明、来年度中に委嘱期間が終わるが引き続きお願いしたい。

- ・編さん委員会委員・・・令和8年7月31日まで
- ・専門委員会委員・・・令和8年10月31日まで
- ・専門部会委員・・・令和8年7月31日まで

(委員長) 事務局から説明のあった委員の委嘱期間について、承認することで異議はないか。

(全員) 一異議なし

(委員長) 異議なしですので、引き続き委員の委嘱についてお願いします。

(4) 次回開催時期について

次回開催日程は、令和8年7月12日(日) 14時から

(5) 閉会

奥村弘編さん委員会副委員長・通史編専門委員会委員長あいさつ